



テントウムシの出す黄色い液は何、どこから出すの

黄色いしるは、テントウムシの武器

テントウムシを手でさわろうとすると、ぽろっと下に落ち、手足を縮めてひっくり返ったままになっています。これを、むりにつまもうとすると、指に黄色いしるがつかます。

危険がせまってくると、テントウムシの仲間、死んだふりをするものが多いのです。手足を縮めたとき、足の関節から、とてもくさい、黄色いしるを出します。

この黄色いしるは、カンタリムジンという成分をふくんだ、なめると苦い味のするしるです。虫を食べる鳥も、このいやなおいにする苦いしるは、苦手なようです。いちどでも、このテントウムシの、苦いしるをなめたことがある鳥は、もう次からは、テントウムシは食べません。つまり、この黄色い液は、テントウムシを守ってくれる武器なのです。

テントウムシの赤と黒の模様は、目立って安全

テントウムシは、とても目立つ真っ赤な色の上に、さらに目立つ、黒い点の模様をもっています。ふつう、こん虫は、敵に見つからないよう、木の葉やかれ枝に似せた色などをしていることが多いのに、なぜ、テントウムシは、こんな目立つ色や模様をつけているのでしょうか。じつは、この「目立つ色の虫は、あの黄色い苦い液を出す虫だよ」ということに、敵が早く気づいてくれれば、テントウムシは安全です。だから、あんなはでな色や模様をしているのです。毒ヘビとか、毒をもつこん虫が、はでな色や模様のもものが多いのは、これと同じ理由です。（監修・中山 周平）

